

国立病院機構熊本医療センター

No.191



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

本年度も臨床研修医を迎えました



教育研修部長
大塚 忠弘

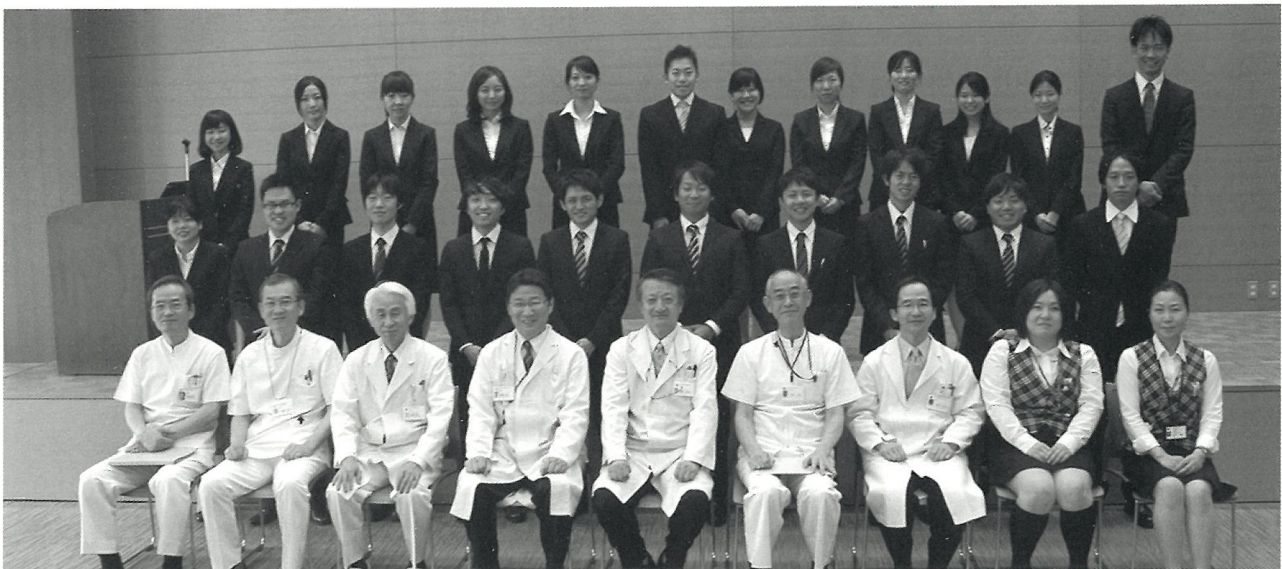
今年も九州・山口全域から医科20名、歯科2名の新研修医を迎えました。医科では、従来からの総合臨床研修（専属14名、大学との禊掛け4名）および本年度より新しく開講された救命救急集中治療臨床研修（定員2名）の2コースに沿ってプログラムが準備されました。

特に後者のプログラムは、専門医取得を目指して特化されたコースであり、その成果が期待されます。当院持ち上がりの2年目17名と併せて総勢39名の研修医を預かることになり、彼らの成長が楽しみであるのと同時に私共その責任を痛感致します。4月1日から約1週間に渡って実施されたオリエンテーションやガイダ

ンス、また各部門別の実習も終了し、現在、各科での研修が開始されたばかりです。新研修医の初々しく率直な振る舞いに、一方で自らを顧みる良い機会にもなっております。

また、本年度も地域密着型の地域医療研修につき、協力施設の先生方をはじめ地域の先生方には厚くお礼申し上げます。医師にとって地域医療は、皆が医師を目指した頃の原点と申しますし、また、患者に最も身近で接する先生方の医師精神を肌で感じ、研修医が自身の将来像を探る大事な研修になります。いろいろとご面倒をお掛けすることと思いますが、ご遠慮なくご指導お願い致します。

最後になりましたが、この度の異動により清川前部長（現統括診療部長）の後任として研修医の指導に携わることになりました。豊永教育研修科長ともども今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



河野文夫院長を中心に22名の新臨床研修医

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



「医療法人社団城山会」

池田内科医院
理事長 池田 俊

熊本市西区域山下代で有床診療所で開業している池田です。私が開業した約20年前、周囲はほとんど田と畑ばかりでした。本院の屋上から西高等学校が見えていました。道路も舗装されてなく雨の時など長靴で患者が来院していました。最近では周囲に建物が立ち並び西高等学校は全く見えなくなりました。H24年4月に熊本市が政令指定都市に移行した時に西区役所がすぐ近くに設立され、城山地区も大分変化してきて空地、田、畑が少なくなり道路も整備され様変わりしてきています。H12年4月に介護保険が制定されてから、本院は有床診療所に加えて介護施設のグループホーム、小規模多機能事業所、サービス付き高齢者向け住宅等、順次近くに併設し医療と介護を一体化し地域住民にサービスを提供してきました。本院の外来及び入院患者は高齢者が多く、又介護施設の入居者の平均年齢は88歳で高齢者がほ

とんどです。現在の日本は高齢化社会に突入しており高齢者は増加の一途をたどっています。医療と介護が一体となった地域住民に対する取り組みは今後ますます重要になってきます。高齢者は種々の病気の合併症をもっており病気が重症化しやすく体力、筋力の衰えと共に骨折等を引き起こしやすい状態にあります。高齢者を多く抱える本院でも例外ではなく、心不全、脳血管障害及び大腿頸部骨折等になった患者を国立病院機構熊本医療センター各科の先生方に一方的にお願いし、大変お世話になっています。特に救命救急センターには昼夜となく時間に関係なく引き受けていただいて適切な処置及び治療をしていただき非常に感謝しています。今以上にこれからも国立病院機構熊本医療センターへのお願いする機会は増加すると思われます。今後ともよろしくお願いするとともに国立病院機構熊本医療センターの益々の発展と先生方々、スタッフの皆様の方々の健康をお祈り申し上げます。



平成23年12月に開設したサービス付き高齢者向け住宅

ペインクリニック外来休診のお知らせ

当院のペインクリニック外来は、当面の間、休診することになりました。

これまで当院ペインクリニック外来をご利用頂いております患者の皆様、ご紹介頂いております先生方には大変ご不便をお掛けすることになり申し訳ございません。できるだけ早期の診療再開に向けて医師確保に努めてまいりますので、ご理解を賜りますようお願い致します。

国立病院機構熊本医療センター

2013 診療科紹介 (59)

消化器内科



部長
杉 和洋
消化器一般、消化器内視鏡、肝疾患
RFA治療、IFN治療、NASH・NAFLD
PBC・AIH
日本内科学会指導医・認定医
日本肝臓学会指導医・専門医
日本消化器病学会指導医・専門医
日本消化器内視鏡学会専門医



医長
中田 成紀
消化器一般、消化器内視鏡、肝疾患
内視鏡治療、EIS/EVL治療、PEG造設
肝栄養療法
日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医



医長
尾上 公浩
消化器一般、消化器内視鏡
内視鏡治療、ESD治療、炎症性腸疾患
日本内科学会認定医・専門医
日本消化器病学会専門医



医師
小林 起秋
消化器一般、消化器内視鏡
内視鏡治療、炎症性腸疾患
日本内科学会認定医



医師
石井 将太郎
消化器一般、消化器内視鏡
肝膵内視鏡治療
日本内科学会認定医
日本肝臓学会専門医



医師
泉 良寛
消化器一般、消化器内視鏡
肝膵内視鏡治療



医師
本原 利彦
消化器一般、消化器内視鏡
内視鏡治療、肝疾患



医師
古閑 睦夫
消化器一般、消化器内視鏡
肝疾患



医師
持永 崇恵
消化器一般、消化器内視鏡
肝疾患

診療内容と特色

消化器病センターは、診療部門として消化器内科外来および病棟（主に7階西病棟）、ならびに検査・診療部門として内視鏡室および超音波室より構成されています。

『消化器疾患の診療』

治療内視鏡としては、上部消化管（食道・胃・十二指腸）では、食道静脈瘤に対して硬化療法（EIS）、結紮術（EVL）、およびその併用（EISL）、総胆管結石に対して乳頭切開術（EST）やバルーン拡張術（EPBD）、食道あるいは幽門狭窄拡張術、ポリープの切除術、出血例ではエタノール局注法、クリッピング法による止血術を行っています。早期胃がんに対しては内視鏡的粘膜切除術（EMR）に加え、粘膜下層剥離術（ESD）を導入しています。また下部消化管（結腸・直腸）ではポリープ切除術、EMR、ホットバイオプシー及び止血術を多用しています。切除不能および再発胃がん、大腸がんに対しては化学療法を行っております。さらに経管栄養で嚥下障害のある患者様には、内視鏡的胃瘻造設術（PEG）を行っています。

『胆・膵疾患の診療』

胆・膵疾患では、内視鏡的胆道ドレナージおよびステント留置術や内視鏡的胆管結石除去術、膵がんに対する化学療法を積極的に行っています。本年より超音波内視鏡を用いた診断および治療を本格的に開始しました。細径針による吸引生検（FNA）や経胃的膵ドレナージへの応用が期待されます。

『肝臓疾患の診療』

肝疾患では慢性疾患が多く、肝生検による組織学的診断による病態把握とともに、C型慢性肝炎ではインターフェロン（IFN）療法、特に難治性症例に対するPEG-IFN・リバビリン併用治療を積極的に行っています。さらに平成24年2月よりテラプレビルによる3剤併用療法を開始し、高度難治例に対する成果が期待されます。B型慢性肝炎に対する核酸アナログ治療やIFN療法も数多く行っています。また原発性胆汁性肝硬変症例が多く、国立病院機構肝疾患専門施設と共同で臨床研究を行い、病態解明に努めています。肝硬変症例では食道胃静脈瘤に対するEIS（L）、EVL、さらにはバルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術（B-RTO）治療を行っています。また肝硬変栄養療法に取組み、成果を上げつつあります。難治性腹水に対してはがん性腹水とともにCART（腹水濾過濃縮再静注法）を行い成果を上げています。肝細胞がんでは、肝動脈塞栓術（TAE）とともにラジオ波焼灼療法（RFA）を積極的に行っています。近年注目されている非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）の診断治療にも力を入れています。平成20年4月より全国でもいち早くC型慢性肝炎インターフェロン治療地域連携クリティカルパスを作成し運用しました。平成21年4月からは肝がん地域連携クリティカルパスの運用を開始しました。熊本県肝疾患診療連携ネットワークにおける地域中核病院として、診療連携拠点病院はもとより地域の専門医療機関およびかかりつけ医と密に連携しながら、肝炎から肝硬変、肝がんを包括的に治療しています。

研究実績

日本全国の肝臓専門施設で作る国立病院機構肝疾患ネットワーク（肝ネット）に参加し、大量のエビデンスを蓄積してEBMを推進するための共同研究を行っています。院内活動では、患者との教育と交流を兼ねて「肝臓病教室」を毎月第3金曜日に開催しています。平成20年4月より全国でもいち早くC型慢性肝炎インターフェロン治療地域連携クリティカルパスを作成し運用を始め、地域の医療機関と実地医療に根ざした勉強会として「二の丸肝臓談話会」を発足しました。国際医療協力として集団研修コース「肝炎の疫学、予防及び治療」を通してJICA（国際協力機構）と共に途上国の肝炎専門医師等に対する研修を指導しています。

診療実績

平成24年度

【外来患者数】 1,816名（月平均151名）

【新入院患者数】 1,536名（月平均128名）

【主要疾患】

急性肝炎（劇症肝炎含む） 77例

慢性肝炎（肝生検・インターフェロン） 129例

肝硬変（肝性脳症・腹水） 137例

食道胃静脈瘤（内視鏡的治療） 34例

肝細胞癌（TAE・RFA含む） 273例

胆嚢炎（PTGBD含む） 19例

胆石症 226例

胆嚢癌・胆管癌（PTCD・ステント含む） 130例

急性膵炎・慢性膵炎 328例

膵癌 7例

胃十二指腸潰瘍（内視鏡的止血術含む） 134例

胃癌（内視鏡的粘膜切除含む） 27例

イレウス 119例

潰瘍性大腸炎・クローン病 23例

大腸ポリープ（内視鏡的ポリープ切除） 93例

大腸癌 87例

ご案内

近年増加している救急消化器疾患症例に対して、迅速かつ的確に対応できるよう技術の向上と設備の充実を図り、また肝臓病専門施設として、診療内容とスタッフの充実を図りたいと考えています。C型慢性肝炎を中心に地域連携クリティカルパスを用いた診療および勉強会を展開しています。胃がん、大腸がん、肝臓がんにつきましては熊本県がん診療連携パス「私のカルテ」を用いて、患者様に安心して均一な診療が受けられるよう診療連携を進めていきます。胆膵疾患に関しても診断から治療まで包括的な診療の向上を目指しています。

毎週水曜日には内視鏡検査の症例検討会を、木曜日には超音波検討会を午後5時より消化器病センター読影室で、金曜日午前7時30分より消化器病カンファレンスを医局カンファレンスルーム1で行っています。ご参加を歓迎致します。二の丸肝臓談話会は年4回の事例検討会と1回の特別講演会を予定しています。興味ある症例や診断あるいは治療に苦慮する症例があればご紹介下さい。緊急を要する場合は、杉、中田または尾上に直接ご連絡下さい。

就任のご挨拶



地域医療連携室長
きよかわ 清川 てつゆき 哲志

このたび片淵先生の後任として連携室長となりました。当院は日本の医療の縮図として、救急医療と高度医療に取り組んでいます。患者さんの高齢化と複雑化のために、急性期での治療だけでは在宅医療へともど

すことが困難な方が増えております。地域の医療を支えるためには第一線で活躍される開業医の先生との強い連携と、急性期医療を在宅療養まで繋げる回復期病院の方々との協力体制が必須であると実感しております。片淵先生が築いてきた「顔の見える連携」と「話し合える連携」をさらに進めて参ります。住民の健康は医療機関のネットワークで支え合うことが求められております。これからもご指導宜しく願いいたします。



企画課長
やなぎだ 柳田 かずゆき 和憲

4月1日付で長崎医療センターより転任してまいりました企画課長の柳田でございます。

熊本医療センターでの勤務は平成19年以来、5年半ぶりとなりますが、建物は当時とは段違いに綺麗かつ立派になり、どちらの方向へ歩いたらよいやら迷っているところです。

さて、河野院長先生の言われた「患者さんにやさしい病院、そして職員にもやさしい病院」を実現すべく微力ながら少しでもお役に立ちたいと考えております。また、高橋副院長先生からの「絶対に断らない救急医療の再構築」の力強いメッセージを胸に再度、熊本医療センターの色に鮮やかに染まってみようと思っております。熊本県における「救急の最後の砦」それが我が病院の生命線であり、また絶対的的使命ということを！個人的には「5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）」の推進と「病院機能評価 3rd G：Ver.1.0」へのチャレンジを目標に精一杯頑張りたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯（8：15～17：15）です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受診日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願い申し上げます。

尚、FAXの紹介用紙は、電話（代表096-353-6501 内線2360）またはFAX（医事096-323-7601）でご請求頂きますと、直ちにFAXにてお送り致します。また、後ほど改めてFAX紹介用紙を郵送致します。ホームページからもダウンロード出来ます。

国立病院機構熊本医療センターホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

（経営企画室長 織田 政継）

就任のご挨拶



看護部長
認定看護管理者
さ え き え つ こ
佐伯 悦子

平成25年4月1日付けで佐賀病院からまいりました看護部長の佐伯でございます。以前から熊本型の地域医療連携のシステムや熊本医療センターの断らない救急医療に大変関心を持っていました。前任者から引き継ぎました平成25年度の看護部門目標には「地域との

連携強化を図る」が2番目に掲げられています。これは、私に託された課題だと自覚しております。病棟ラウンドをしながら退院を見据えた看護が展開されているのか。看護の連携はどうか。現在、情報を収集中です。

地域医療連携室には看護部から4名の看護師を配置しておりますが、退院調整が精一杯で前方連携が十分との意見も聞いております。人員不足を含め問題は多々あると思いますが、開放型病院の皆様方には忌憚のないご意見を頂き、改善に努めていきたいと思っております。今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。



副看護部長
た さ き
田崎 ゆみ

この度、平成25年4月1日付で宇城市松橋町の熊本南病院から配置換えで参りました。転任者オリエンテーションで、「当院が断らない救急医療を実践できるのは、地域の先生方のご協力により成り立っている。」と説明を受け、地域連携の重要性とともに救命救急セ

ンターを持つ急性期総合病院としての役割を再認識いたしました。

病院の規模・診療機能ともに今までとは違う環境の中で、副看護部長として自分に何ができるか考えているところですが、看護部は4月に100名近い看護師を新たに迎え、約600人の看護師が患者さんに最も近いところで働いています。連携病院との情報交換や治療・看護ケアの継続など、私たち看護職にできる役割を考え、質の高い医療とともに患者さんへ温かく心のこもった看護が提供できる病院を目指し努力して参ります。今後ともよろしくお願いいたします。



副看護部長
た から ぎ ふ み こ
寶木 富美子

この度、平成25年4月1日付けで、嬉野医療センターより副看護部長昇任で参りました。よろしく願い致します。熊本医療センターは、救急医療をはじめとして地域連携クリティカルパスの推進など、多岐にわたり活発な活動をされている病院であると認識しており

ました。また、入職後のオリエンテーションでは、「断らない救急医療」を合言葉に取り組んでいることを知りました。皆様のご指導を頂き、微力ながら地域医療連携・救急医療の推進等に力を尽くしていきたいと思っています。

今年度より看護部長室は、看護部長をはじめとして副看護部長が3名体制となりました。新しい体制において、これまで以上に地域との連携を深めながら熊本医療センターの力となれるよう努力して参りたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。



「救急ワークステーション設置」調印式が行われました

平成25年3月27日熊本市と「救急ワークステーション」の設置協定調印式が行われました。

このことにより4月より当院救命救急センター内に救急ワークステーションが開設されることとなりました。

救急ワークステーションとは、熊本市消防局の救急隊が当院等、救命救急センター設置医療機関に派遣され診療現場で研修を行い救急活動のスキルアップにつなげるものです。

また、近隣での重篤救急要請の際、医師が救急車に



幸山市長と協定医療機関院長



調印式の様子

同乗し救急現場へ出場、早期の医療介入を目指すともに災害医療における連携施設として整備することも目的とされています。

今後とも、行政・地域・医療機関と連携を深め救急医療体制の更なる充実強化を目指してまいりますのでご理解とご協力をお願いします。

(救急医療支援業務担当 後藤 達広)

臨床研修修了式が行われました

平成25年3月22日、当院で基幹型研修を受けた医科16名、歯科2名の臨床研修修了式が行われ、河野院長よりひとりひとりに臨床研修修了証が授与されました。研修開始時は、まだ学生のような初々しかった研修医も、1年あるいは2年間の当院での研修で鍛えられ、自信に満ちあふれた立派な医師に成長しました。これは本人たちの努力もさることながら、地域医療の研修先として研修医を指導して頂いた先生方や、患者さんを送って貴重な症例を経験させて頂いた連携医の先生方のお



2年間の臨床研修を終えた医師達



研修終了祝賀会の様子

陰であり、心から感謝申し上げます。

夜は研修修了祝賀会を行いました。院長をはじめとする指導医の先生方の温かい言葉と、研修1年目の司会によるアトラクション、また院長が自ら選んだ記念品や研修医1年からの心のこもった寄せ書きなどを贈呈して、研修を修了するにふさわしい楽しい会となりました。

(教育研修科長 豊永 哲至)

最近のトピックス

 「吾、唯、足（あし）を知る～
 悔るべからず閉塞性動脈硬化症、
 それは氷山の一角」


心臓血管外科部長

岡本 実

今回は心臓血管外科領域の中でも閉塞性動脈硬化症（ASO）を取り上げました。

この主題は京都、龍安寺の蹲踞に刻まれたものがある名ですが、以前、何かの学会に使われており、非常に印象的でありましたので、ここぞとばかり用いさせてもらいました。

ASOは心臓、大動脈疾患と比較してあまり緊急性や派手さはありませんが、調べてみますと実は非常に恐い疾患なのであります。

先日、ニュースで脳卒中のリスク評価を簡単に点数化されるようになったことがとりあげられ、その中で「下肢上肢血圧比(ABI)検査」が“隠れ動脈硬化”の発見に有効だと報道されていました。何故に脳卒中が上下肢の血管に関連付けられるのか。

閉塞性動脈硬化症、最近では末梢動脈疾患（Peripheral Arterial Disease: PAD）と呼ぶことが多くなりましたが、その世界的な治療ガイドラインは「TASC-Ⅱ」と呼ばれるもので、それによるとASOの基準のひとつにABI値 ≤ 0.9 を挙げています。また、重症度分類にはFontaine分類が一般的に用いられ、大きく4段階に分けられます。特にその分類の中でもFontaineⅢ、Ⅳ度は重症下肢虚血に該当します。

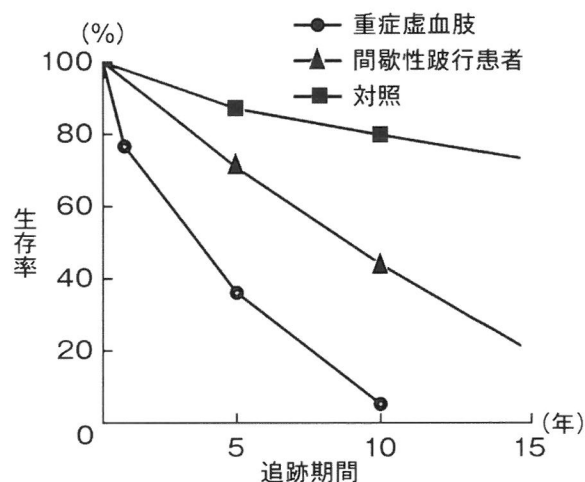
この重症下肢虚血の予後を見ますと“5年生存率”が約40%、間欠性跛行レベルでも約70%、さらに下肢切断に至った患者の“1年生存率”は50%以下という驚くべき数値です。そして注目すべきはその死因の75%は心血管疾患によることが判明しており、糖尿病症例ではさらに危険性が高くなることは想像に難くないと思います。

つまり脳動脈、心臓冠動脈も末梢血管のひとつであり、同じ動脈硬化が原因です。発症してからの時間経過こそ全く違いますが、予後の悪さと関連性を見ますと、ASOが侮れないという理由をご理解いただけるとと思います。これが前半で述べました脳卒中と上下肢の血管が関連付けられることの答えであります。

従いましてASOという木から全身という森を見て、治療戦略を立てる必要があります。

最後にTASC-Ⅱで治療内容を読みますと、間欠性跛行レベルでは最初に禁煙などの“リスクファクターの管理”、次に“運動療法”が記載されています。つまり“生活・体質改善”です。血管内や外科的治療は劇的な改善が得られますが、根本的な治療にはなりません。むしろ運動療法などを行いやすくする補助療法とも言えます。

たかがASO、されどASO、「木を見て森を見ず」の医療にならないようにしなければなりません。



Fontaine分類

度	臨床所見
I	無症候
II a	軽度の跛行～およそ200m以上
II b	重度の跛行～および150m以下
III	虚血性安静時疼痛
IV	潰瘍や壊疽

新任職員紹介



小児科
みずかみ ともゆき
水上 智之

平成25年4月から小児科で勤務することになりました

た、水上智之と申します。福岡市出身で、平成7年に熊本大学を卒業後、熊本市民病院、県立延岡病院、熊本赤十字病院に勤務し、平成15年からは宮崎大学小児科で主に小児感染症、小児免疫不全症、小児膠原病の診療にあたりました。平成23年からの2年間は熊本再春荘病院で急性期疾患、地域医療に携わってきました。熊本医療センターでの勤務は初めてで、新しい環境に不安も多いのですが、これまでの経験を生かしながら精一杯頑張りたいと思います。ご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。



外科
みずもと たかお
水元 孝郎

平成25年4月より外科で勤務させて頂くこととなりました水元孝郎と申します。
平成9年に山口大学を卒業し、熊本大学第2外科に

入局致しました。熊本大学付属病院、熊本市立市民病院、八代総合病院、愛知医科大学付属病院での勤務を経て、熊本大消化器外科に入局後は済生会熊本病院、人吉総合病院にて勤務させて頂きました。

熊本医療センターは県内屈指の救急病院であり、悪性疾患や急性期の外科的治療を要する患者様が多数来院されるとお聞きし、不安な気持ちを覚える一方、多くの症例を経験できる機会に恵まれて期待を胸に膨らませております。人に優しく自分に厳しく日々精進し、患者様から信頼されるような医師になれるよう頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。



血液内科
かわきた としろう
河北 敏郎

4月より血液内科に赴任いたしました河北敏郎と申します。熊本大学医学部を卒業後、熊本大学血液内科、

熊本地域医療センター、阿蘇中央病院、公立玉名中央病院での臨床研修、大学院での研究を経て2007年からの2年間は当院に勤務させていただきました。2009年から東京大学医科学研究所付属病院で造血幹細胞移植の臨床に携わり、この度4年ぶりの復帰となりました。

前回当院に勤務した際に患者様や病院内外の諸先輩より教えていただいたことは私の医師としての礎になっています。少しでもその恩返しができるよう努力していく所存ですので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

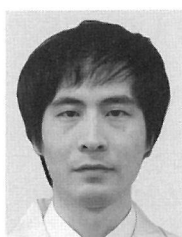


整形外科
たか た こうじ
高田 興志

平成25年4月より整形外科で勤務することとなりました高田興志と申します。

平成12年に熊本大学医学部を卒業し、整形外科教室に入局後、熊本大学付属病院、公立玉名中央病院へ勤務してまいりました。

国立病院機構熊本医療センターは県内でも有数の救急病院ですが、私自身は救急医療に関しては7年ほどのブランクがございます。若干の不安と緊張がありますが、よい機会ですので、初心に帰り診療に励みたいと思っております。皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思っておりますが、ご指導の程何卒よろしくお願い申し上げます。



血液内科
いわなが えいさく
岩永 栄作

4月より血液内科勤務となりました岩永栄作と申します。2002年に熊本大学第二内科に入局し、熊本赤十字病院内科、天草中央総合病院内科、熊本中央病院循

環器科を経て2006年から熊本大学血液内科大学院で白血病の研究に従事、2010年から熊本大学病院血液内科医員として勤務して参りました。

国立病院機構熊本医療センター血液内科は全国でも有数の規模を誇る血液内科であり、この地で働けることを大変名誉であると感じております。当院の特色である難治腫瘍性疾患に対する細胞療法を発展させながら血液・腫瘍分野において最高の医療を提供できるように微力ながら精進していく所存であります。開業医の先生方のご要望に添えるように精一杯頑張りますのでご指導の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

新任職員紹介



消化器内科

いし い しょうた ろう
石井 将太郎

4月より熊本医療センター消化器内科に勤務することとなりました石井将太郎と申します。

私は熊本県内の病院で勤務させていただいた後に、平成23年4月より仙台市医療センターにて胆膵疾患の診療について研修して参りました。仙台に着いたころは、東日本大震災の直後ということもあり多少の不便もありましたが、専門的な研修を受けることができました。この経験を生かして、熊本医療センターの胆膵疾患診療に貢献できればと思っております。

まだまだ若輩で頼りないかもしれませんが、ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



消化器内科

いずみ よしひろ
泉 良寛

今年度より消化器内科へ配属されました泉 良寛(イズミ ヨシヒロ)と申します。簡単では御座いま

すが、自己紹介をさせていただきます。八代高校および福岡大学を卒業後、平成17年より熊本大学医学部附属病院消化器内科へ入局致しました。その後、大学での研修を経て、水俣総合医療センター、熊本赤十字病院、玉名地域医療センターへ勤務させて頂き、今回、お世話になることになりました。消化器全般の診療をさせて頂き、主に胆膵の領域に興味をもちしております。不器用な面もあり、業務に慣れるまで、ご迷惑をお掛けするかと思いますが、何卒、宜しく願い申し上げます。



消化器内科

もとはら としひこ
本原 利彦

初めまして。医師7年目の本原 利彦です。今年から国立病院機構熊本医療センターの消化器内科で働か

せて頂きます。

消化管を中心に、消化器内科全般の診療をさせていただきます。自分自身も日々精進しながら御紹介頂いた患者さまを元気な状態で諸先生方にお返しすることで少しでも安心で安全な医療、信頼できる医療に貢献できれば幸いです。

まだまだ御指導いただくことが多い身であり、御迷惑をおかけすることも多々あると思いますが全身全霊を尽くして頑張りますので何卒、宜しくお願いします。



脳神経外科

たけすえ よしひろ
武末 吉広

はじめまして、平成25年4月より当院勤務となりました脳神経外科の武末吉広です。熊大医学部出身で、大学時代はバスケットボール部に所属していました。これまで、熊大病院、鹿児島県鹿屋市の徳田脳神経外科病院、八代市の熊本総合病院で勤務してまいりました。未熟ながら懸命に診療および自己研鑽に励んでいきたいと思っています。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



呼吸器内科

じょうたい たか ゆき
城臺 孝之

平成25年4月より呼吸器内科へ勤務することとなりました城臺孝之と申します。平成20年3月に熊本大学医学部を卒業後、1年目は熊本医療センターで、2年

目は熊本大学病院で卒後研修を行いました。平成22年4月より熊本大学呼吸器内科へ入局し、今回5年ぶりに熊本医療センターに戻ってくることになりましたが、現在の新しい病棟での勤務は初めてなので新たな気持ちで気を引き締めて精一杯励んでいきたいと思っております。呼吸器内科の先生方をはじめ他科の先生方、コメディカル、スタッフの方にご指導いただきながら医療センターだけでなく熊本全体の医療に貢献できればと思っております。至らないところも多いかと思いますが、よろしくお願いいたします。

■ 研修のご案内 ■

第172回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成25年5月20日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例検討「左主幹部心筋梗塞」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科

石井 正将

4. ミニレクチャー「造血幹細胞移植の最近の知見」

国立病院機構熊本医療センター血液内科医長

河北 敏郎

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

第125回 救急症例検討会（特別講演）

日時▶平成25年5月22日（水）18：30～20：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター副院長

高橋 毅

【特別講演】

「山口県の救急ワークステーションについて」

熊本大学医学部附属病院救急総合診療部教授

笠岡 俊志 先生

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）

第31回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成25年5月25日（土）15：00～17：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：野津原内科医院 理事長／熊本市医師会理事

野津原 昭 先生

演題：「循環器疾患」

1. 急性心筋梗塞の現状

国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長

藤本 和輝

2. 腹部大動脈瘤

国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科部長

岡本 実

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）FAX 096-352-5025（直通）

第140回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定〕

日時▶平成25年5月30日（木）19：00～20：45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「糖尿病ケトアシドーシスで来院され劇症1型糖尿病と診断された1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

片岡文、坂本和香奈、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一郎

2. 「糖尿病ケトアシドーシスで来院され原発性性腺機能低下症を合併していることが判明した2型糖尿病の1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

片岡文、坂本和香奈、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一郎

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎 TEL 096-353-6501（代表）内線5705

2013年 研修日程表 5月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

5月	研修センターホール	研修室	その他
1日 水			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
2日 木	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「医療連携について」 国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
7日 火			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
8日 水			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
9日 木	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「医療安全について」 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部長 芳賀 克夫	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
10日 金			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
11日 土	14:00~16:00 第245回 滅菌消毒法講座 「洗浄の基礎知識 ~器具の洗浄からメンテナンスまで~」		
13日 月			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
14日 火			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 19:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同プログラム C1
15日 水			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
16日 木	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「院内感染について」 国立病院機構熊本医療センター小児科部長 高木 一孝		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
17日 金		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「肝臓について」	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
18日 土	13:00~15:30 第128回 看護卒後研修 「実地指導者に必要なコーチングスキル」 有限会社AEメディカル代表取締役 野津 浩嗣		
20日 月	19:00~20:30 第172回 月例会(内科症例検討会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
21日 火	19:30~20:30 第27回 熊本県食・障下リハビリテーションセミナー 「小児の摂食嚥下障害」 くまもと江津湖療育医療センター・言語聴覚士 本村富土子		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
22日 水	18:30~20:00 第125回 救急症例検討会・特別講演 座長 国立病院機構熊本医療センター副院長 高橋 毅 「山口県の救急ワークステーションについて」 熊本大学医学部附属病院救急総合診療部教授 笠岡 俊志		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
23日 木	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「循環の管理(急性冠症候群)」 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝 18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会 〈細胞診月例会・症例検討会〉	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
24日 金			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
25日 土	9:00~16:00 楽しく学ぶ基礎看護研修(場所:看護学校) 15:00~17:30 第31回 症状・疾患別シリーズ 【日本医師会生涯教育講座2.5単位認定】 座長 野津原内科医院 理事長/熊本医師会理事 野津原 昭 「循環器疾患」 1.急性心筋梗塞の現状 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝 2.腹部大動脈瘤 国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科部長 岡本 実		
27日 月			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
28日 火	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
29日 水	18:00~19:30 第80回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
30日 木	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「循環の管理(不整脈疾患)」 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 宮尾 雄治	19:00~20:45 第140回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 【日本糖尿病学会指導士認定更新のための研修単位<2>0.5単位認定】	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
31日 金			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読書室 手術室

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)